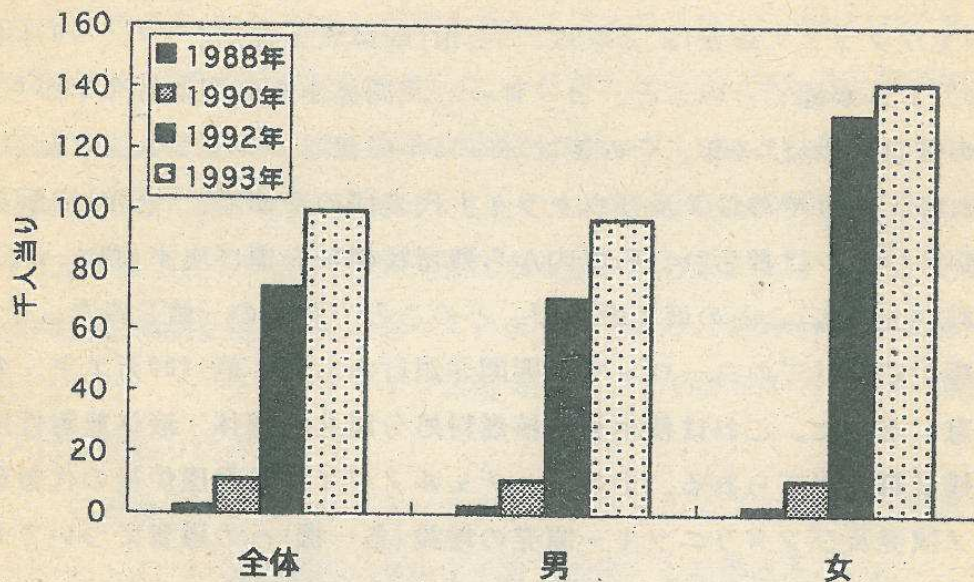


その後の作業班の人々

障害者になった作業班



10年前の原発事故の際、放射能をばらまきながら燃え続ける原発の消火や石棺の建設に当たったり、住民の避難誘導、汚染除去作業、作業員の救助等に当たった人々を、ウクライナでは「作業班の人々 (Liquidator)」と呼ぶ。旧ソ連全体では60万人とも言われる。ウクライナでは35万人が登録されている。私たちが支援しているジトーミル州からは5040名が参加した。以前講演に来ていただいた、アントニョクさん、オチュウカーノフさんもその一員である。作業班の人々は被爆線量がもっとも高く、事故の被害者の中で、身体的にも精神的にも最もつらい立場に置かれている人々である。旧ソ連政府の発表では事故直後28名が死亡した事になっている。

しかし、実際にはその後たくさんの

作業班従事者が亡くなっている。ウクライナ保健省発表では1988～1994年に5802名が死亡し、その70%が被爆労働に起因するという(毎年7～800名死亡)。

上のグラフは、今年4月講演に来日したジャーナリスト、コヴァレフスカヤさんにいただいたデータ(保健省作成)である。ウクライナの作業班のうち現在約10%(3.5万人)の人々が労働能力のない第1級障害者である。特に、その数が1992年頃から急激に増加していること、女性の方が男性よりも割合が高い事が注目される。心臓病や脳血管系、消化器系の病気などに悩まされ、仕事に就けない事から自殺者もあとをたたないと言われている。

(河田昌東)